

■「小さな拠点」づくりに関する皆さんの疑問に答えます



「小さな拠点」づくりを進める上では、様々な意見を調整する人材が必要だと思いますが、人口が減少し、高齢化が進む集落地域では、そのような人材が不足しています。どうやってそうしたコーディネーターを確保したらよいでしょうか？



「地域おこし協力隊」などの制度を活用し、都市部など外部の人材を地域で受け入れたり、大学などの研究機関や民間コンサルタントなどに調整役として参画してもらうことなどが考えられます。



様々なサービスをつないだ「小さな拠点」をつくり、地域主体で運営していく上で、既存の自治組織や農協、商工会などの地域団体・組織は、それぞれどのように「小さな拠点」の運営に関わっていくことが期待されますか？



自治組織などの地域団体には、運営体制の一員として「小さな拠点」での活動に直接参画してもらうことが有効です。一方、農協や社会福祉法人などの場合は、それぞれが展開している事業の中で「小さな拠点」での活動と連携を図ることが有効です。



「小さな拠点」を中心に必要な生活サービスがつながり、確保されても、仕事(雇用の場)がなければ、移住・定住は難しいのではないのでしょうか。「小さな拠点」づくりを通じて雇用の場をつくるにはどうしたらよいですか？



ひとつひとつでみれば一人分の収入に満たないような小さな仕事や事業も、「小さな拠点」でつなぎ、「半農半X」などの『合わせ技』で行うことにより、合計すれば一人分の収入が確保できる仕組みがつけられます。

★実践編「小さな拠点」づくりガイドブック(本編)には、詳しい「小さな拠点」づくりのポイントや注意点のほか、「小さな拠点」をつくり、続ける各地の取組事例などについて紹介しています。ぜひ、ガイドブック本編もあわせてご覧ください。
(http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudoseisaku_tk3_guidebook.html)

■このリーフレットは、講演、研修、会議等においてご自由にお使いください。

この資料に関するお問い合わせ先



国土交通省国土政策局総合計画課

〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-2
電話 03-5253-8365、FAX 03-5253-1570

実践編

「小さな拠点」づくりガイドブック 概要版

人口減少や高齢化の進行により、住民の生活に必要な生活サービスや機能が維持できなくなっている地域がある中、暮らしを守り、地域コミュニティを維持して持続可能な地域づくりを目指すための取組として、「小さな拠点」づくりに注目が集まっています。

このガイドブックを参考に、お住まいの地域での「小さな拠点」づくりについて皆さんでご検討され、集落地域の再生に向けて取り組んでみてはいかがでしょうか。

■集落地域における「小さな拠点」とは？

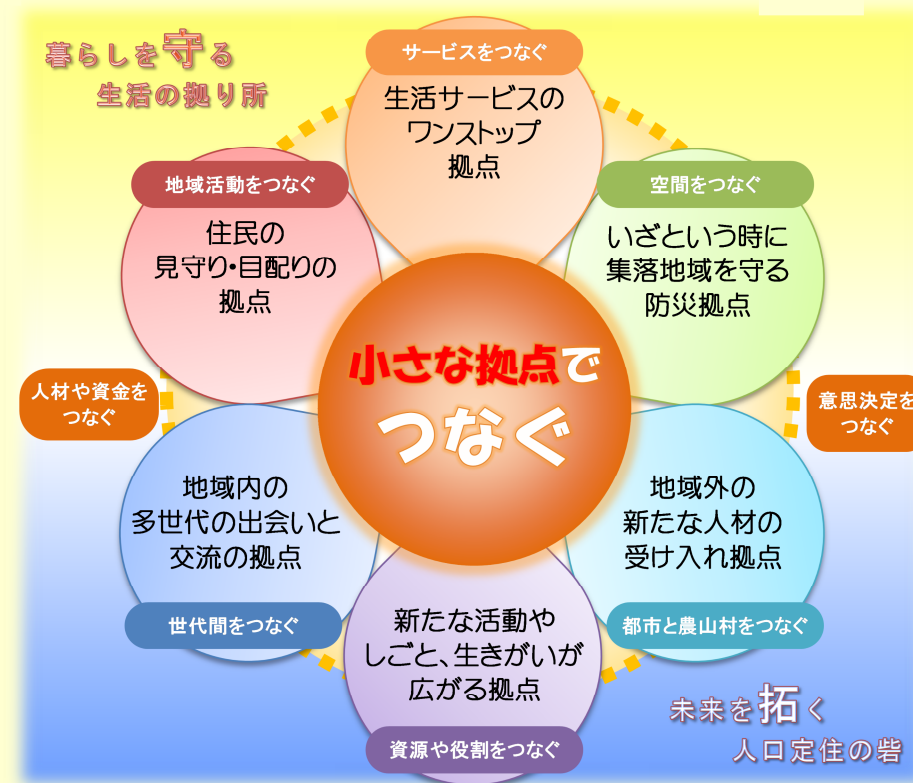
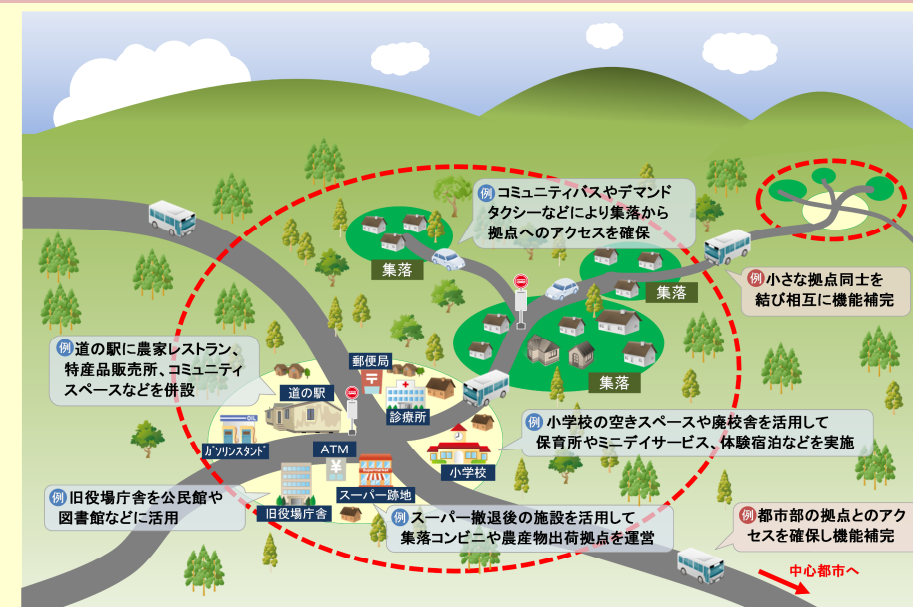
「小さな拠点」とは、小学校区など複数の集落が集まる基礎的な生活圏の中で、分散している様々な生活サービスや地域活動の場などを「合わせ技」でつなぎ、人やモノ、サービスの循環を図ることで、**生活を支える新しい地域運営の仕組みをつくらうとする取組**です。

この「小さな拠点」と周辺集落とを**移動手段で結ぶ**ことによって、**高齢者なども安心して暮らし続けられる生活圏＝「ふるさと集落生活圏」**が形成されます。

さらに、**それぞれの地域の実情に応じてつくられた拠点が複合的・重層的なネットワークを形成**することで、それぞれの特性を活かして互いに機能を補いあい、**地域での暮らしを総合的に支える仕組みをつくる**ことができます。

このような「小さな拠点」は、集落地域の暮らしの安心を守る「**生活の拠り所**」であり、同時に、地域の未来への展望を拓く「**人口定住の砦**」となることが期待されます。

すなわち、「小さな拠点」とは、人口が減少しても人々の生活が守られ、地域に住み続けられることを目指す取組です。

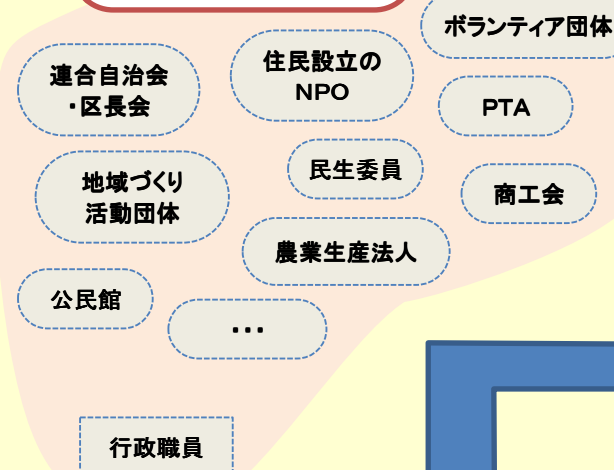


■「小さな拠点」づくりはどうやって進めるの？

「小さな拠点」をつくり、取組を続けるための手順とステップをご紹介します。
最初からすべてがうまくいく訳ではありません。試行錯誤を積み重ねていきましょう。



多様な主体の参画



1 様々な主体で検討体制をつくる

▶▶▶ 詳しくは 本編 P8~11

- 地域にはどんな組織や人材、機能があるか調べ、「**地元関係図**」をつくります。
- 「地元関係図」にある様々な地域社会の構成主体に声をかけて、「**小さな拠点**」づくりに取り組むための**検討組織**をつくります。
- 行政職員も検討体制に参画するなどして、地域での取組を様々な面からサポートします。

2 地域の現状や住民のニーズ・シーズなどを把握する

▶▶▶ 詳しくは 本編 P12~15

○地域での生活を支える**生活サービスの現状や今後の見通し**、あるいは**地域で暮らし続ける上で住民に必要とされているもの(ニーズ)**などを把握します。

例えば..

- ・買い物や通院はどうしている？
- ・地域で何か活動をしている？
- ・毎日の暮らしの中で困っていることは？
- ・この先も地域で暮らし続けたい？
- ・地域にあるとよいと思う活動・サービスは？
- ・地域のために何かやりたいことはある？

○地域点検活動やワークショップなどを通じて、**地域の現状や課題、地域の魅力や資源、住民自身で提供できる活動(シーズ)**などを把握します。

○**地域の将来をどうしたいか、自分たちに何が出来るか**などを話し合い、「小さな拠点」づくりに向けた地域住民の皆さんの主体性を高めていきます。

様々な調査対象・調査手法

調査対象

地域住民	生活サービス事業者
来訪者	元住民(地元出身者)

調査手法

アンケート調査	地域点検活動
ヒアリング調査	ワークショップ



3 「小さな拠点」づくりプランを検討する

▶▶▶ 詳しくは 本編 P16~17

○「**小さな拠点**」に必要な**機能やサービス**を検討します。

例えば..

- ・身近な地域にないと困る生活サービス・機能は？
- ・地域内にはなくても、行動範囲を広げれば用が足りるものは？
- ・すでに地域住民や地域の様々な団体・組織が行っている活動を「小さな拠点」で組み合わせたら、何が出来る？

○「**小さな拠点**」をつくと**生活がどう変わるか、地域がどう変わるか**、将来の地域での暮らしをイメージし、プランにまとめます。



試行的取組を通じた検証

- 高齢者移送サービス車両を使った商品配送
- 交流イベントと併せた健康づくり活動の実施
- 移動販売や朝市・夕市の開催

4 「小さな拠点」を運営する体制をつくる

▶▶▶ 詳しくは 本編 P16~19

- 地域の皆さんや様々な組織・団体、行政と、「**小さな拠点**」での**サービス・活動の行い方や役割分担**について話し合います。
- 「**小さな拠点**」の運営を支えるスタッフとして、地域内だけでなく地域外にも広く声をかけ、**人材を確保**します。



5 「小さな拠点」での取組・活動を始動させる

▶▶▶ 詳しくは 本編 P18~21

○「**小さな拠点**」の**取組をスタート**します。

○まず、**住民ニーズの高かったサービスやすぐに実行に移せそうな活動**から始めていきます。必要に応じて行政の支援や民間団体の助成金などを活用し、**遊休施設を改修**するなどして、活動の核となる場所を整え、成功体験や試行錯誤を繰り返しながら、段階的に取組を広げていきます。



6 「小さな拠点」の取組を持続・発展させる

▶▶▶ 詳しくは 本編 P20~23

- 購買や宿泊など収益が期待できる事業**を組み立てたり、地域内の様々な「**小さい**」仕事を**組み合わせ**て**雇用を確保**するなど、「**合わせ技**」を発揮して、「**小さな拠点**」が**持続的に運営**できる仕組みを構築します。
- 行政も、地域の状況に応じて**活動の立ち上げに必要な経費の補助**や**施設の管理委託や事業委託**などを通じて、「**小さな拠点**」での取組を支援します。

点検・見直し